

(対象事業：~~地域連携強化事業~~・~~地域文化資源整備活用事業~~・~~ミュージアム支援地域人材育成事業~~  
・~~国際交流拠点形成事業~~)

事業名：＜漆のくに・会津＞プロジェクト

事業者名：＜漆のくに・会津＞プロジェクト

住所：福島県会津若松市城東町1-25

TEL：0242-28-6000

FAX：0242-28-5986

HPアドレス：<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

連携事業者名：福島県立博物館、会津大学、  
福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター  
会津漆器協同組合、会津若松商工会議所

会場：会津若松市城東町 1-25 福島県立博物館  
会津若松市一箕町鶴賀字上居合 90 会津大学  
会津若松市一箕町大字八幡字門田 1-1 会津大学短期大学部

事業期間：平成21年7月2日（木）～ 平成22年3月15日（月）



## 1. 館の使命と本事業の関係

福島県立博物館は平成19年7月に、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめた。本事業は「福島県立博物館の使命」が掲げる、当館が目指す姿を実現するために企画された。すなわち、ふくしま発見 博物館・出会いふれあい 博物館・あなたも主役 博物館が、当館が目指す博物館のあるべき姿であり、本事業により、1. 福島のさまざまな文化資源のうち漆に関する歴史的な背景や現在の状況・技術などを発見する。2. 本事業の講師や参加者が博物館を拠点として交流する。3. 参加者が文化事業に自発的に参加する基盤を形成し、博物館がその活動の拠点となる方向性を示す、ことを目指した。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

本プロジェクトは、漆液の産地であるとともに漆器産地でもあるという会津の特徴と、会津若松市に所在する福島県立博物館の漆・漆芸に関する調査研究の蓄積を活かし、地域の教育機関などと多様な形で連携する中で、漆への理解や関心を高め、地域の文化資源を有効に活用・継承・発展させていくことを目指した。素材としての漆の多様性と漆器の魅力を子どもたちや市民に伝え、地域の人々に広く漆に触れ・感じ・知る場を提供し、「漆のくに」としての文化的なアイデンティティを醸成していく契機とし、さらに、会津若松市内に所在する大学と連携を図るとともに、漆文化を継承しようとしている若手作家や職人を支援することを目的とした。

### ②事業概要

漆の歴史的背景や現状を広く伝えるために、下記の6つの小事業を実施した。

1. ワークショップ「私の漆を育てよう」
2. ワークショップ用漆器制作
3. ソフト制作「漆器デザインソフト開発」
4. サイト制作「漆のくに・会津 バーチャル」
5. シンポジウム「漆の力～産地の現状とこれから」
6. 連続トークイベント「知力と地力を活かした地域の活性化」

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

##### ワークショップ 私の漆を育てよう1 下草刈りと漆掻き

日時：平成21年8月1日（土）10:30～16:00

講師：NPO法人はるなか漆部会長 照井邦彦さん、会員 谷口吏さん（漆掻き実演・指導）、会員 山田智美さん、会員 大塚久則さん、会員 大森康弘さん

場所：喜多方市川前地区・山都公民館・喜多方市山都

漆の植栽育成活動を行っているNPO法人はるなか漆部会のみなさんを講師に、良い漆を育てるための漆の育成作業、漆掻きの実演と体験。

##### ワークショップ 私の漆を育てよう2 漆の木を植える

日時：平成21年11月15日（日）13:00～17:00

講師：NPO法人はるなか漆部会長 照井邦彦さん、会員 谷口吏さん（漆掻き実演・指導）、  
会員 山田智美さん、会員 大塚久則さん、会員 大森康弘さん

場所：喜多方市蛇崩地区

講師のはるなか漆部会員のみなさんから、漆の苗の特徴とそれに合わせた植え方を教わった後、グループにわかれて植栽を行った。終了後は、漆に関するQ&Aコーナーが自然に生まれ、講師と参加者の「漆」をめぐる熱心なやりとりが続いた。

##### ワークショップ用漆器制作「漆の器で食べてみよう」用漆器制作

漆器の独特の触感、本物の漆器の良さ、どのように作られているのか、会津漆器の特徴はどのような点なのかなどを、子どもたちを始め多くの人に体験してもらうための漆器制作。実行委員メンバーによる漆器コンセプトを決める打合せを実施後、器のモデルに会津若松市内の旧家で使っていた黒塗りの四ッ椀を選択した。制作をお願いした6人の職人さんたちは、修業した場所などによりそれぞれ作り方や得意な技法が異なり、そのバリエーションの豊富さは、そのまま会津漆器の持ち味の豊かさを示すこともできた。また若手の職人の技を披露してもらう機会とすることもできた。

##### シンポジウム 漆のチカラ～産地の現状とこれから～

日時：平成21年11月21日（土）14:00～16:00、場所：福島県立博物館講堂

基調講演「文化資源と地域活性化」 【14:00～14:45】講師：初澤敏生氏（福島大学人間発達文化学類教授）

報告「産地の現状とトライアル」 【14:45～15:30】

「会津の取り組みと課題」竹内克己氏（福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター専門研究員）

「津軽の取り組みと課題」小松勇氏（青森県産業技術センター弘前地域研究所主任研究員）

「漆器産地と作家」井波純氏（会津大学短期大学部准教授）

パネルディスカッション「産地の現状とこれから」 【15:30～16:00】

コーディネーター：赤坂憲雄（福島県立博物館長）、パネラー：初澤敏生氏、竹内克己氏、井波純氏、小松勇氏

司会：小林めぐみ（福島県立博物館学芸員）

文化資源と地域活性化の可能性と、漆という文化資源を持つ漆器産地が抱える問題と新たな可能性をテーマとしたシンポジウム。伝統工芸と地域活性化を専門とする福島大学の初澤教授による伝統産業とアートの融合にも触れる基調講演の後、会津、弘前の両産地の現状と取り組み、漆器産地と作家の関係性を各報告者に紹介いただいた。パネルディスカッションでは、福島県立博物館長赤坂憲雄がコーディネーターとなり、4名のパネリストと「漆」、「漆器産地」、「文化資源」について意見を交わし、議論は「博物館の役割」にも及んだ。

## 漆器デザインソフト「仮想漆器工房 うるらぼ」制作

ソフト制作：会津大学 穂積武真・大竹玄明・幸形夢将、デザイン制作：会津大学短期大学部 松本愛子

スタンプ制作：会津大学短期大学部 大竹由布子・大森咲希・北澤尚子・木村由貴実・土屋満実・三留朋江

ソフト制作指導：会津大学准教授 大津山公平、デザイン制作指導：会津大学短期大学部准教授 横尾誠

スタンプ制作指導：会津大学短期大学部准教授 井波純

インターネット上の仮想の漆器工房ソフト制作。会津大学が主体となり、会津大学短期大学部、福島県立博物館との理想的な連携の中で完成した。事業実施期間中、数度に渡る打合せを重ね、それぞれの技術や蓄積を活かして制作にあたった。

## ＜漆のくに・会津＞プロジェクトサイト「漆のくに・会津VR」制作

サイト制作：会津大学短期大学部 結城千浩・今井晴香・斎藤涼子・松本愛子

サイト制作指導：会津大学短期大学部准教授 横尾誠

「漆のくに・会津VR」は、＜漆のくに・会津＞プロジェクト、そして会津の漆、日本の漆を紹介するサイト。会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コースインターフェイスゼミでサイト制作を学ぶ4人が制作した。事業に参加した学生が、自分たちが学ぶ地域の文化や歴史を発見していく過程が窺え、事業を通して学生と地域の職人の交流も生まれた。

## トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化 1F-style の仕事

日時：平成22年1月16日（土）13:30～15:00、会場：福島県立博物館講堂

ゲスト：五十嵐恵美さん・星野若菜さん（F-style）、聞き手：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

## トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化 2 会津の地力

日時：平成22年1月16日（土）13:30～15:00、会場：福島県立博物館講堂

ゲスト：山形洋一さん（前喜多方市美術館長）、渡邊晃一さん（福島大学准教授・福島大学芸術による地域創造研究所長）

聞き手：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

## トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化 3 越後妻有とアートの力

日時：平成22年2月20日（土）13:30～15:00、会場：福島県立博物館講堂

ゲスト：北川フラムさん（越後妻有アートトリエンナーレ総合プロデューサー）、聞き手：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

地域の文化資源を活用して地域の活性化を行っている取り組みを、4組のゲストにご紹介いただいた全3回のトークイベント。各回のゲストの取り組みを通して、文化資源をどのように守り活用していくのかを、参加者とともに考えることができた。また福島県立博物館が地域の博物館として目指している方向性と、次年度以降の活動へと繋げる意識も共有できた。

## （2）参加者の数

参加者人数 延べ 314 人

内 訳： 全て一般

## （3）事業により作成した印刷物等

シンポジウム 漆のチカラ～産地の現状とこれから～ トークイベント 知力と地力を活かした地域の活性化 リーフレット＜漆のくに・会津＞プロジェクト事業報告書

#### (4) 実施事業に関する新聞記事等

##### ○新聞記事



福島民報新聞 平成 21 年 6 月 30 日 社会面



福島民友新聞 平成 22 年 1 月 1 日 社会面

##### ○テレビ、関連誌等

福島県広報番組 うつくしま情報局

「漆のくに・会津」平成 21 年 11 月 29 日(日) 9:45~10:00

#### 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

各事業の参加者からは、概ね好意的な意見を頂戴した。特に、博物館が地域の文化拠点として活動していこうとしていることに対しての賛同や期待の声が多くみられた事は、当館にとって今後の事業の進め方を検討する上での大きな判断材料となるだろう。また、事業を通して各団体と連携を進めたことにより、博物館が持つ資料の収集・研究の成果を、博物館だけでは不可能な手法でも一般に還元することができたことも大きな成果だった。また、連携や事業の実施を通して、参加団体や事業参加者が交流を深め、事業終了後もそれが続くなど、博物館が地域の文化拠点として機能する可能性を高めることもできたと思われる。事業の実施にあたって、広報が不十分であったことが大きな反省点であり、情報が十分に伝わっていないことについては参加者からもお叱りの声をいただいた。